

なける図書館オーテピア (雲の上図書館もお忘れなく)

総合内科医 川村 誠



平成30年7月24日待ちに待ったオーテピアが開館。たくさんの人の思いが込められた公共施設です。そんなに経済的には恵まれていない高知県です。しかしこのような立派な図書館ができるとは感慨深いです。おそらく災害対策も含め、かなりスペースの余裕を持って作られています。多くの大人、子供などでいっぱいになっている光景を見ると胸が熱くなりました。スタッフのご苦労も報われたのではないのでしょうか。この光景が次の世代につながることを切に願います。

さて医療に携わるものとして、医療関係の本について今回は話してみたいと思います。以前は県立図書館の本といえども医療関係の本はそれほど専門的でなくあまり有効活用できる本は、正直あまりありませんでした。しかし閉館前くらいから徐々に専門書を含めかなり増えてきた印象がありました。通常医学生も使うギャノン生理学、ガイトン生理学などに混ざってスタンフォード神経生理学(Liqun Luo)などかなりマニアックな書籍まであります。

医療関係者でなくてもかなり図解を活用し病気の理解に役立つ本として、病気が見えるシリーズ、全部見える-スーパービジュアルシリーズなどがあります。病院で専門的な話を聞く前後にみておく参考になるのではないのでしょうか。図解を多用している本を優先してはどうでしょうか。必ずしも最先端の情報ではないかもしれませんが、基本的な正しい情報を以前より集めることができるのではないのでしょうか。認知症関係も専門的なものからご家族の方のお話中心のものまで多種多様な本があります。通常の読書室から特別静かな部屋まで、集中できる場所が確保できます。

また災害に関するパンフレットなどいろいろな情報を得ることもできますので是非ご確認をすることをお勧めします。



そして今回もう一つご紹介したい図書館があります。ご存知かもしれませんが平成30年5月26日オーテピアより一足先に開館した梶原の雲の上図書館です。梶原には隈研吾さんの建築物が以前からあります。最近では木のぬくもりを感じさせる新国立競技場建設が思い浮かべることができますが、今回も木材を生かした個性的な図書館ができました。7月1日折からの台風2号の影響による雨の中、梶原まで意を決して朝から出かけました。土砂降りで見界も悪い状態で2時間弱をかけなんとか梶原までたどり着きました。苦労してついた梶原はまさに天空という言葉がぴったりの場所でした。少し薄日もさし神々しい雰囲気でした。日曜日でもあり人通りもなかったため、駐車場への道がわからず10分くらいさまよいました。ようやく到着すると、隈研吾、面目躍如というしかない個性的な空間が待っていました。



ゆっくりと本を読むつもりでしたが、しばらく木の香りを堪能していると、アンサンブルソノリテによるフリーコンサートが始まりました。この日のメンバーはバイオリンの野々村嘉怜、川村陽華、ビオラの豊嶋博満、フルートの安藤千織、コントラバスの北村希代、ピアノの北村真実、チェロの豊嶋和史（音楽監督）でした。ベートーベン、シューベルトなどの楽曲を残響条件も素晴らしい条件で本を読みながら至福の時間を過ごせました。特に周囲の木材材質の特性を有効に使ったピアノ五重奏曲『鱒』での絶妙なバランス、表現力はこの曲を聴くために構

原にきたとしても、全く悔いのない至高の経験でした。夕方近くまで図書館でマ
ッタリと過ごしました日常生活に戻りました。
どうでしょう非日常的な至高の経験を構原するのは。